

# 水痘ワクチン接種についての説明書

水痘ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。

この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

## 【接種対象者】

接種時点で大阪市民であり、

生後 12 か月から生後 36 か月に至るまでの間にある方（1 歳から 3 歳の誕生日の前日まで）

※すでに水痘にかかったことがある方は対象外となります。

## 【接種方法】 1 回 0.5mL を 3 か月以上の間隔をおいて 2 回皮下に接種します。

※標準的な接種期間

1 回目：生後 12 か月から生後 15 か月に至るまでの期間

2 回目：1 回目の接種終了後 6 か月から 12 か月に至るまでの間隔をおいて 1 回

## 1 水痘について

水痘帯状疱疹ウイルスの空気感染（ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること）、飛沫感染（咳やくしゃみなどにより感染すること）、接触感染によっておこる、感染力が強い病気です。

潜伏期間は 2 週間程度で、発しん、発熱が主な症状です。発しんは最も特徴的で、顔面、胸腹部、頭部に次々に点々とあるいは集中的に現れ、発しんは紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するといわれています。一般に水疱の数は症状が出てから数日以内に 250～500 個以上に達します。発熱は通常 38℃前後で 2～3 日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれんを合併することがあります。

主に子どもの病気で、9 歳以下での発症が 90%以上を占めると言われています。子どもにおける重症化は、熱性けいれん、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。大人での水痘も稀にみられますが、大人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています

## 2 ワクチンについて

弱毒化された水痘帯状疱疹ウイルスを凍結乾燥させた生ワクチンです。予防効果は、通常 80～90%以上の抗体陽性率が認められており、水痘ワクチンの 1 回の接種により重症の水痘をほぼ 100%予防でき、2 回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。

※すでに水痘にかかったことがある方は水痘に対する免疫を獲得していると考えられ、基本的には接種不要です。

## 3 ワクチンの副反応

主な副反応は注射した部位が赤くなる（紅斑）・腫れる（腫脹）（1～5%未満）で、過敏症（接種直後から翌日にあらわれる発しん、発熱等）（1%未満）があります。全身的な反応としては接種後 1～3 週間ごろに発しん・発熱（1～5%未満）、水疱性発しん（1%未満）がみられることがありますが、一過性で、通常数日中に消失します。また、頻度は不明ですが、重大な副反応として、アナフィラキシー（急性の強いアレルギー反応）、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎があらわれることがあります。

#### 4 予防接種をうける前に

##### (1) 一般的注意

気になることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

##### (2) 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 接種ワクチンの成分に対してアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

##### (3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患がある方
- ② 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しん等のアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③ 接種ワクチン成分に対してアレルギーをおこすおそれがある方
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑥ 明らかに免疫機能に異常のある疾患のある方、免疫抑制をきたす治療を受けている方

##### (4) ワクチンの接種間隔

- ① 注射生ワクチンの接種を受けたあとに注射生ワクチンを接種する場合、27 日以上の間隔をあける必要があります。また、医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種することができます。

参 考 注射生ワクチン：麻しん風しん・水痘・BCG・おたふくかぜなど

- ② 輸血又はガンマグロブリンの注射などを受けたことのある人は 3～6 か月以上あけて接種してください。

##### (5) 接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後 30 分は体調が変化することがありますので安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後 4 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすりはやめましょう。
- ⑤ 接種当日は激しい運動はさけてください。

#### 5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障がいが残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。お住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。